



山形市PTA連合会研修大会が開催されました

(全体講演会編)

7月5日(日)、山形テルサをメイン会場に第58回山形市PTA連合会研修大会が開催され、研修部・常任委員を中心に参加をしてきました。「次代(あす)を担う子どもたちへ～私たちは、今～」と題し、約700名余の参加者のもと開催されました。午前中は、全体行事に加え、講演会ということで、山形県立保健医療大学の佐竹真次氏を講師に迎え「思春期の子どもとの向き合い方」をテーマに講演をしていただきました。

以下、参加者からのご意見を紹介いたします。

- ・ 子どもに対する接し方について、改めて考えるいい機会になりました。
- ・ 日々の生活の中では、なかなか改めて子どもとの向き合い方を考えることはなかったのですが、とても楽しく考えさせられました。
- ・ 外でもストレスを感じているにもかかわらず、家でもストレスを与えているのではないかと、とても反省しました。
- ・ 「打たれ強い子は、ただ我慢するだけの子ではなく、必要な時には“助けて”と言える子だ。」という言葉が一番印象に残りました。子どもにレジリエンス(立ち直る力)形成するために、家庭において何でも話し合うことが大切なのだと思います。
- ・ 子どもの特徴や良いところを見つけると同時に、親として自分自身を理解することも大切だと感じた。
- ・ 親として格好付けずに、率直な人間関係を築いていきたいと思った。
- ・ これから思春期を迎える子どもの親として参考になるお話を聞くことができました。子ども自身を受容し、共感し、親の望む子ども像を押しつけないこと、それでも見守り、信じて、必要な時には助けてあげられる親になりたいと思いました。
- ・ これから思春期を迎える子どもとの会話を考えている中で、とても参考になる講演でした。特に、「人は対話によって癒される」という言葉が心に残りました。そして、対話の基本姿勢として、聞く、共感する、真実性、質問 など、細かく分類した話がためになりました。
- ・ 義務教育期間を終えても親子はずっと親子。これからの将来が楽しみになりました。
- ・ 小6、中2の男子が思春期を迎えており、とても参考になりました。親が子どもに高望みさせて無理をさせていないか改めて考えることができました。大きな心で接し、ありのままの親の姿を見せていきたいと思いました。
- ・ 非常に講演慣れしていらっしゃる先生で、引きつける箇所、具体的活動の箇所、笑いを呼びながら聴講者を緊張とリラックスをつくる箇所がちりばめられ、とても短く感じた時間でした。

子どもが成長する中で、それを取り巻く環境や保護者の関わり方など、大変有意義な講演会でした。午後からは、四つの分科会に分かれて研修を行いました。その報告は、次回のニュースで行います。